

成田山の開祖

成田山開山の祖は、寛朝大僧正(916-998 かんちょうだいそうじょう)である。彼は宇多天皇(867-931)の孫であり、真言宗の最初の大僧正でもある。平将門(?-940)という侍が率いた、朝廷に対する反乱を鎮めることを天皇に命じられ、939年に関東地方を訪れた。寛朝は聖なる不動明王を現地に連れて(制作会社注：勸請して)成田山に祀る。御仏の前で護摩の儀式を行ったのである。儀式の最後の日に反乱は収まり、寺院が建設され、新勝寺(「新たな勝利の寺」と名付けられた)なのである。寛朝大僧正は、成田山の他にも京都に遍照寺を開基している。